

生物は潜んでいる

■目につかない生物

気温も低下し、蒲生干潟では一見生物は目につかない。しかし、足下に目を向けて見ると多くの生物が潜んでいることを確認できる。Fig.1はコメツキガニの巣穴、摂餌跡である。干潟全域にこのような様子が広がっている。ただし、蒲生干潟の潟湖は現在南北2つに分かれているが（レポートNo.174参照）、北側の潟湖周辺では見ることができなかった。

アシハラガニの巣穴（Fig.2）は、コメツキガニより大きく、かき出した泥・砂が見られる。

潟湖内にはゴカイの仲間の巣穴が見られる（Fig.3）。観察していると水が動く様子が見られ、巣穴内に生息していることが確認できる。

Fig.4は水中に見られた生物の巣穴であるが、出入りした痕跡が放射状に泥上に残されている。

転石の下にはケフサイソガニ（Fig.5）やタマキビ（Fig.6）、フナムシが潜んでいるのを観察できた。



(Fig.1 コメツキガニの巣穴、摂餌跡)



(Fig.2 アシハラガニの巣穴)



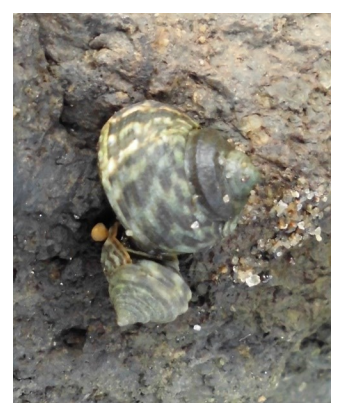
(Fig.3 ゴカイの巣穴)



(Fig.4 放射状に跡が見られる巣穴)



(Fig.5 ケフサイソガニ)



(Fig.6 タマキビ)